

DOLL FORUM JAPAN



ドール・フォーラム・ジャパン
SEPTEMBER 1996 Vol.10

人形制作 結城美栄子 写真 五十嵐真

●山口景子・山口力靖

作品展

10月3日～10月15日
12:00～18:00 (会期中無休) ギャラリー新光
神戸市中央区元町3-9-7 堀川ビル2F (JR阪神元町駅西口より徒歩2分)
tel 078-331-2313
*歌う女達と青と白の種族など15点と、油絵、ペーパーワークによる二人展
問合せ 07458-2-5985 山口

●松原登代子 個展

11月28日～12月3日
井上ギャラリー
大阪市中央区心斎橋筋1-3-10 tel 06-245-5378
問合せ 創作人形工房じゃがいも tel 06-373-9596



◆昔人形館青山

ギャラリーK1

京都市北区室町北大路下ル小山
東大野町69
tel 075-415-1477
open 1:00～19:00
9/1～10 *写真右
左川雅子 創作人形展
10/1～10/9
小林たね子 創作人形展
10/10～10/20
山森佳子 創作人形展
10/21～10/30
出水かおり 創作人形展
11/1～11/10
大井里乃 創作人形展
12/1～12/10
前田真理 創作人形展 *写真右
アビールボックス
8/1～10/31 川崎裕子・西文子・HARU
11/1～1/31 題府洋子・浮津麗・松本勝子



GALLERY 他

◆せ・ら〜る

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-52-3
黒川ビル3F tel 03-3478-5230
9/1～9/8 水無川リナ人形展
「Lunatic Night」(写真右)
9/21～9/30 安岡郁夫人人形展
(写真中)
11/2～11/10 仲瀬遥美人人形展
(木彫)
11/21～11/30 田畑恵美人人形展
(写真右下)
12/10～12/28
月光社創作ビスクドール三人展
(訂正 9号の当欄でご紹介した相馬宏充・棚野幸知二人展で棚野氏の表記に間違いがありましたことを、お詫びし訂正いたします)



◆とおりゃんせ

群馬県桐生市堤町3丁目8-2 tel 0277-22-8777
10/5 「人形供養祭 鳳仙寺にて 供養料1体300円
人形受付9/1～10/4 店頭にて
10/19～10/30 「森のいのち展 '96」 陶人形高橋安子
木工作家 高木政則が出演
11/17～12/1 「サンタクロースの部屋 '96」 人形
藤井路以が出演

◆人形館 白石人形の蔵

宮城県白石市城北町4-18 (JR東北本線白石駅下車)
tel 0224-26-1475 午前10時～午後4時 年中無休
企画展
9～10月 明治の版画と土人形 (文明開化の版画と同時代の東北各地の土人形)
11月～12月 昔のきものと市松人形 (江戸時代の打ち掛けや昔のちりめんの着物及びいろいろな布地をまとった市松人形)

ヤン・シュワンクマイエル監督作品
「短編集」

計1時間20分「フード」「スターリン主義の死」他監督自身のインタビューを含む全8作品

非常に多彩な作品群である。一貫しているのはセンスのよさとシュールさのみ。あとは作品の雰囲気や演出などに全く共通点はない。レストランで向かい合って座っている空腹の2人の男が、ウェイターを何度呼び止めても素通りされるので、ついに待ち切れずにテーブルに添えてある花を食べ始め、花瓶の水を飲み干し、花瓶を食べ、首から下げているナプキンを食べ、自分の靴を食べ、服を食べ・・・とエスカレートしてゆく様子をコメディータッチで描いた「フード」。「プラハの春」で知られるチェコ



スロバキアの独裁政権時代を題材にとり、切開されたスターリンの胸像の中から生まれたゴドワルド (1948年のクーデターで大統領になったチェコスロバキア共産党書記長)の胸像が独裁政権を誕生させるが、やがて胸像は赤・青・白 (革命後のチェコスロバキアの国旗)の3色のペンキで塗りつぶされてしまい・・・という非常に政治色の濃い哲学的な「スターリン主義の死」。厨房で大きな肉塊から切り出された2つの肉片が恋に落ち、まな板の上でロマンチックにダンスを踊り、小麦粉にまみれて抱きあうが、料理人の無慈悲な手に捕まれてフライパンに放り込まれ、ステーキになるという全1分という短さの「肉片の恋」など、ストーリーに関しても1編1編が独創的である。ヤン・シュワンクマイエルはプラハ出身で、チェコスロバキアの古典的アニメーションを継承しながらも他に類を見ない独特のテイストを極めてきた、アート・アニメーション界の巨匠である。(小磯)

*ヤン・シュワンクマイエル<妄想の限りなき増殖>
東京・渋谷ユーロ・スペース1にて9月中下旬まで上映
Aプログラム「ファウスト」Bプログラム「短編集」
問い合わせ ユーロスペース1 ☎03 (3461) 0211

DOLL FORUM JAPAN

SEPTEMBER 1996 VOL.10

CONTENTS

表紙 「銀河鉄道の夜」より
人形制作 結城美栄子
写真 五十嵐 真

インフォメーション・スケジュール 2.
近況報告 山口景子 4
山吉由利子 17

REVIEW 展覧会より 5
結城美栄子「賢治ワールド」
メグ・ホソキ「マドモアゼル・ルッ
ルッの世界旅行」

佃井丹弥・グループ・ロンド・山吉由利子・沢登しげこ・大森小夜・大槻和子・夢のつばさ・左川雅子・鈴木千賀子・風・平井民子・棚野幸知・藤井路以教室展

新人紹介 小林とむぼ 9
展示即売会・コンテスト 9

カバーインタビュー 結城美栄子 10

ゲイルからの手紙
文 ゲイル・エニド・ジマー 14

人形気分 文 青山恵一 15

(人形・芸術)考(1)
-「ひとがた・カラクリ・ロボット展」に則して
文 天野一夫 16

お化け屋敷店長日記
イラスト・文 摩宮ピノン 18
人形ジオラマ WHY? 文 中西弘光 19

ニアダ・リポート 文 小川千恵子 20
ドールアート・リポート
文 ビーター・コウ 20

from overseas ベラ・ショルツ
文 イングボルク・リーセ 21

教室案内 22
私の人形日記 イラスト 渋谷真理 23
投稿/編集後記 23

ドール・フォーラム・ジャパン 10号
1996年9月5日

ドール・フォーラム・ジャパン事務局発行

ドール・フォーラム・ジャパンは、日本のドールアートを支援するためにつくられた情報誌で、購読会費とユーラシア・ドールズのサポートにより運営されています。

SCHEDULE & INFORMATION

スケジュール

【東日本】

●水澄美恵子展

「兎」

8月28日～9月16日
ギャラリー旬
港区南麻布4-2-49 火曜定休
tel 03-3444-7665



●飯塚誠太郎

愛の贈り物 *写真下



9月22日～9月28日
東京交通会館BF ギャラリー
波瑠 (ハル)
東京都千代田区有楽町2-10-1
tel 03-3215-7686
問合せ 048-266-3052 飯塚

●中西京子 和紙人形の世界展

10月17日～22日 横浜高島屋9F ギャラリー
「江戸時代の芝居小屋」はじめ9景のジオラマを含めた
人形総合展で関東では初展示。全2500体。

●粧順作品展 風の幻燈会 *写真下

10月28日～11月2日 スペース ユイ
東京都港区南青山3-4-11 tel 03-3479-5889
風の中で人形たちが妖精になって戯れる・・・



●アトリエ・アイドル

人形と人形小物展

10月15日～10月20日
すべ〜す小倉屋
東京都台東区谷中7-6-8
tel 03-3828-0562

●小牧多賀子創作人形展

*写真

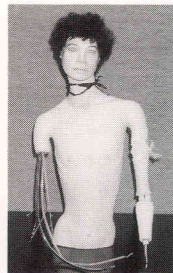
10月19日～10月26日
目黒千種画廊
東京都豊島区目黒3-18-6
tel 03-3954-0053



●滝野功子人形展

First 「A-WA」 *写真右

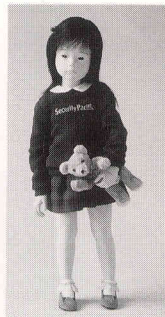
11月7日～11月16日
会期中無休 10:30～18:30
ギャラリーアメリア
東京都港区南青山6-13-26
A・Cポイント
tel 03-3400-3663
球体関節人形と人がたオブジェ
十数点を展示



●滝康子創作人形展

*写真左

11月11日～11月17日
11:00～19:00 初日13時
から。最終日16時半まで
ギャラリー近江
東京都中央区銀座6-9-16 口
シュビル1F
tel 03-3571-6480 革張りによる
ポーズ人形を中心に球体
関節も数体展示
問合せ 048-268-7380 滝



●杉田明利人形展 (杉田透子染織展併催)

11月中の土・日・祝日のみ 11時から17時まで
山猫軒 埼玉県入間郡越生町龍ヶ谷523
tel 0492-92-3981 東武東上線・八高線 越生駅下車
黒山行きバスで上大満下車徒歩20分

●さとうその子人形展

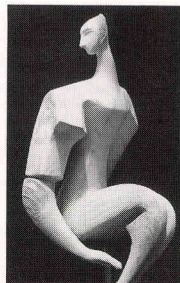
わいわい・がやがや

11月8日～13日 フレスカ
東京都新宿区百人町1-10-11 tel 03-3362-0243

●宮本寿恵子展

*写真右

12/5～12/10
銀座アートプラザ2F 中央区
銀座5-3-13
問合せ 03-3289-2807



●長谷川裕子のヨー

ロッパの職人人形展

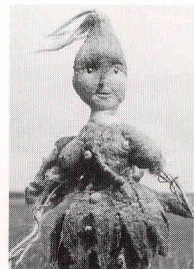
仕事を覚えて大人になっていく「見習い物語」
12月11日～17日
10:00～19:30 (土曜19:00迄)
大丸デパート東京展10F 特選ギャラリー
JR 東京駅八重洲口
tel 03-3212-8011 18世紀イギリスのいろいろな仕事の
職人の見習いの子供達を表現

【西日本】

●石田百合作品展

FELT WORKS

9月24日～9月29日
(11:00～19:00 最終17
時) 堺町画廊
京都市中京区堺町通御池下
ル tel 075-213-3636
*羊毛から手作りのフェルト
の人形 問合せ: tel
01557-6-2956 石田



インフォメーション

中西京子作品集

「人形、花ごよみ」(写真)



花をテーマに、生花作家刈米義雄氏の構成で、季節を追って繰り広げられる中西京子の和紙人形と生花の競演。43作品を収録。初心者でも分かる人形の作り方も含む。A4判72頁、オールカラー。英文対訳。青玄社より9月30日発行。一般小売価格2800円のところ、DFJ会員は特別価格2500円(送料含)でお届けいたします。お申込はユーラシア・ドールズの通信販売で。

吉田氏の人形

千葉千恵己のCDに登場(写真)

7月24日に発売された千葉千恵己のファースト・ミニアルバム「クルミ」(2000円)のジャケットに、吉田良一氏制作の人形が登場している。千葉さん本人、昨年の吉田氏の個展に毎日通ったほどその人形に惹かれ、CDづくりに深く影響した。収録曲はタイトルの「クル

ミ」他3曲。甘く素直な歌声が耳に優しい。ジャケット写真も吉田氏の撮影による。



96 サンタ・フェ・ドールアート (英語版) ビデオ発売

日本人作家が好評だった今年4月のサンタフェ・ドールアートの様子がビデオになった。会場の様子や、作家や関係者のインタビューを含み弊誌編集事務局長の小川千恵子も登場。88分、VHS、英語のみ。ユーラシア・ドールズの通信販売で購入可能。一般5000円、DFJ会員4500円。

DFJ 写真展 ペラ・ショルツ

10月19日～11月15日 アテネフランセ(東京・JRお茶の水駅下車) 日曜を除く毎日9:00～19:00 *今回DFJ誌面で紹介しきれなかったリセー夫人撮影のオリジナルプリント13点を展示 日程の変更あり 問い合わせDFJ事務局 TEL 0423-95-7547

黒沢正子さんの人形

NHK 教育テレビで登場

「もっともっと」9月30日(月) 午前10:30～10:45
10月5日(土) 午前9:15～9:30 NHK教育テレビで放送。革を使ったユニークな造形で人気のある黒沢正子さんが、ドイツのファンタスティックな童話のTV人形劇化の為に人形を制作。

ユーラシア・ドールズ 事務所オープン

9月22日よりユーラシア・ドールズ兼DFJ事務所を一般に開放します。ユーラシア・ドールズの扱う商品を手にとってご覧いただけます。場所が手狭なため、全ての商品を取りそろえてはおりませんが、サンプルをご覧の上その場でご注文いただくことが出来ます。留守の場合もありますので、お越しの場合は、事前にお電話で確認をお願いいたします。連絡先は裏表紙をご覧ください。

DFJ 個人レッスン

技術に対する質問、素材の扱い方、制作上の悩みなど、経験豊かなプロの作家とDFJ事務局スタッフが指導・相談に応じます。お一人(またはグループ) DFJ会員2時間10000円 非会員15000円。要予約。
場所: ユーラシア・ドールズ事務所
日程: 9月20日(金)、10月15日(火)、11月20日(水)

DFJ オリジナルカレンダー

1997年版申込み受付中!
大島和代、山口景子の作品のピンナップカレンダー。
A4判2枚セット。詳細は別紙で!

近況報告

山口景子

Figure #132 想像の伽藍 I

32.5 x 17.5 x 16.5 cm

この「想像の伽藍」は6月にシルクロードを旅した後に制作した最新作です。5月4日～9月8日まで、ニューヨークのアメリカン・フォークアート美術館で、「The Art of the Contemporary doll」のタイトルで、DFJ 2号の表紙の人形が展示中です。アメリカ工芸美術館発行の機関誌「American Craft」(8・9月号)でも紹介されています。



結城美栄子の宮沢賢治の世界

結城美栄子作品展

賢治ワールド「釜の中のイギリス海岸」

5/11~19

パークタワーホール(東京・新宿)

「風の又三郎」「ガドルフの百合」「セロ弾きのゴーシュ」な

ど、宮沢賢治の童話から約百体の陶器の人形を制作、その作品展は、女優でもある作者の結城美栄子さんみずからプロデュースを手がけた。人形それぞれを役者と考へ「動かない芝居」の舞台であるという空間構成には、布の会社が協力、趣のある布と照明を幻想的に組み合わせた。いくつかの作品は、上から垂らされた紗のような半透明の布越しに、またはその隙間から覗くようになっている。また、賢治の童話の登場人物の衣装を着た監視人



風の又三郎

の動作も異次元の人のようで、心憎いほどの心配りである。

作品は、インスピレーションで一気に仕上げていくという作者の勢いと力が感じられる。その発想やフォルム、表情の自由奔放さは、従来の日本人の、特に人形のあいだではなかなか認められにくいものだが、作者がヨーロッパで育ったことが大きく関係しているだろう。ヨーロッパに憧れた賢治と、ヨーロッパに育ちそのセンスを身につけた作者のベクトルが向かい合った今回の展示は、賢治のファンタジーを味わい楽しむための拠り所としてひとつの位置をしめることになると思う。



猫の事務所

今回展示された作品は、この後岩手県盛岡市の賢治ワールドにある「ホテル森の風」に常設展示される他、作品集「賢治ワールド」で全容を見ることが出来る。

メグ・ホソキの マドモアゼル・ルウルウ

メグ・ホソキ個展 マドモアゼル ルウルウの世界旅行
6/10~6/15

スペース・ユイ(東京・南青山)

「オズ・マガジン」の表紙などで若い世代に人気の高いイラストレーターのメグ・ホソキさんの人形個展は、一般の人形展とかなり様相が異なる。ホソキさんのイラストのようにシンプルなファッション・ドール「マドモアゼル・ルウルウ」は、パービー人形やリカちゃんのように大量生産の方法で型をおこし、硬質ビニールで作られている。彼女は、この個展の五十体だけのために、渋る工場の関係者を説得し、「ルウルウ」を制作した。パービー人形と同じく31cmのルウルウは、世界の各都市のタイトルを冠し、作者自身親しみのあるファッションをまとっている。

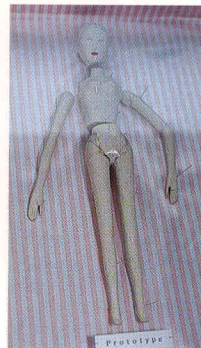
ホソキさんのこだわりは、いわゆる人形作家のそれと正反対である。例えばどこでも手に入る布地で、ミシン目も特に細かくせず、時には裁ち切りのまま、特に、髪は植毛にすることにこだわった。いわば、どこで手を抜くかが課題だったという。だが量産して販売することはホソキさんの目的ではない。彼女自身、着せ替え人形が好きで、コレクションも多く、イラストも紙の上で着せ替え人形をしているようなものだという。自分の絵を立体化するとどうなるか、また、絵をもっと好きでいるために少し離れて自分の絵を見るという意味で、ルウルウの制作は三年越しの思いの末実現したものだった。ユニークなコンセプトやそれを工場主に理解させるという行為、制作、完成まで全てを含め、ルウルウを見ると、アーティストの人形とはこういうものではないかと感じた。



ガラス



ハノイ



プロトタイプ

伽井丹彌人形展 人形譚

4/29~5/12

フ・カメラ (東京・赤坂)

住宅地のマンションの地下にあるギャラリーは、看板もなく、案内状を持った人しか訪れることはないだろう。にもかかわらず、若い人達がかわるがわる訪れては、殺風景といつてもいいほど飾り気のない会場で長い時間を過ごしていた。

展示された七体は全て球体関節の少女像で、新作の百二十センチ大の裸体の少女の人形三体が正面を向いてシンメトリーに展示されている。白い壁に映る素肌の少女たちからは、脱がされたというよりも自ら肌を表す少女の感性を感じる。左右のやや小さめのアクリルボックスの中にはやはり裸体の少女が閉じこめられている。作意性のあるポーズは箱という無機質なフィリターを通して鑑賞される。

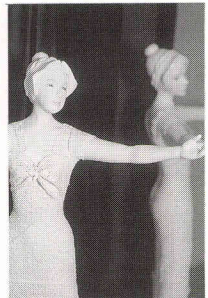
今までの展示では、本人のイメージに頑固にこだわる演出で見てきたそうだが、今回は色々な人の意見を取り入れていこうと外見も内容も白紙の状態に戻した展示が、力をつけた素直な印象となり、好感が持てた。(小川)

第三回グループ・ロンド 創作人形展

5/13~5/19

せ・らるる (東京・新宿)

高橋操さんの教室出身者によるグループ展で今回は三回目。毎回多少のメンバーの変化があ



るが、一年半に一回というペースでコンスタントに開催、成果をあげてきている。今回参加の九人はそれぞれ三体を出品、殆どが石塑による固定ポーズだが、内容は、躍動溢れる桜井江津子さんや、美しい色と造形の木立眞佐美さん、コミカルな蘭丸さん、女性の力強さを感じさせる種田昌子さんなど個性の違いがはつきりと楽しめる展覧会だった。写真は上野延子さんの「背中合わせ」(小川)

山吉由利子人形展 少女譚

5/20~5/30

美音樹 (東京・渋谷)

丹念に磨かれ妖しく色を施された石塑の球体関節の人形。そのまわりには首から吊された人形、標本のように瓶に詰められた子供の頭部、樹脂で型どられた蟬の抜け殻のような半透明の少女。耽美を好む少女の危うい妄想に登場するような彼らは、一見痛々しい状況にありながら、しかし悲壮感はなく、か

といつて無機質でもない。屍のようでありながら、はつきりとした存在感がある。それが彼らの人形である所以なのだろう。球体関節人形の愛好者の間で人気の高い山吉由利子さんの今回

の個展では、旧作四点を含め十九点を展示。それぞれが密度の濃い作者の充実した仕事をみせていた。(小川)

沢登しげこ展 時間のささやき

5/23~5/29

大丸東京店ギャラリーてん



満月、半月など月の満ち欠けを表す縮緬をまとった子供達を、和のメルヘン、今回のタイトルとなった「時間(とき)のささやき」は洋のメルヘンと、「銀河鉄道の夜」のステージを境に三十体あまりが展示されている。三十センチ大のバックキングの作品は、師である人の影響がみられるが、月の子供達のはじけるような動きは作者独自のもので、これを発展させより充実させた作品を見るのが楽しみである。(小川)

大森小夜人形展 天使II

6/1~6/9

せ・らるる (東京・青山)

「日曜日の天使」から「土曜日の天使」まで各曜日を名前に冠する七体の天使の人形たちが白い空間で静かに佇んでいる。天使たちはすべて女性体で慈悲深い微笑みを浮かべており、聖母のイメージも重なって見える。

人形は桂または繪を材料とし、アクリル絵具で着色。着色とヤスリがけを何度も繰り返したという表面は木目と重ねられた絵の具によって優しい光沢を放っていた。でき得る限りシンプルで柔らかいものを目指したという大森さんの言葉通り、素朴さが木の温もりとして伝わってくる。大森さんは吉田良一氏に師事し、最初は芝居用のからくり人形を製作していたが、やがて置き人形に転向。今回は二年ぶり五度目の個展となる。(小磯)

大槻和人子人形展 ぼへみV

6/3~6/9

ギャラリー近江 (東京・銀座)



今年三月に家庭画報の公募で優秀賞を受賞した「小さな淑女」を始め、微笑みを浮かべた十五体の子供や少女の人形が思い思いに並んでいた。作品はすべて石塑を用いた球体関節人形。大きさは五十センチくらいものから最大で百五十センチほどのだが、今回は一メートル前後のやや大きめのサイズの人形が目立った。作品の多くは外国人の少女だが、市松風の日本少女人形が二体あり、そこはかとなく作者本人の面影を感じさせ

る。目鼻立ちを押さえたような人形の顔は、市松風の作品によく合っていた。

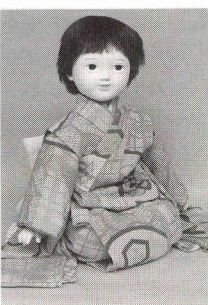
大槻さんは吉田良一氏に師事後、定期的に個展を開催。毎回洋服を衣替えさせて展示したいというこだわりの為に季節を変えて行われている。今回は夏の服ということで、日本人少女の着ている和服以外はアンティーク・レースを使った薄いドレスなど、ほぼ全て手作りされている。また「もう一つの趣味」と大槻さんが言われた十五センチ前後の小さなデディ・ベアの縫いぐるみ八体と、外枠を夫君に作ってもらい内装を手掛けた十分の一サイズで二階建て五部屋のミニチュアハウス(配線も完備されており、ちゃんと電気がつく!)も展示されていた。(小磯)

創作人形展 夢のつばさ

5/28~6/2

ギャラリー幹 (倉敷)

岡山市在住の人形作家木村宏美さんと門下生十人の久しぶりの作品展なので楽しみにしていたが、会場に入ると、石塑を胡粉やちりめんなどで仕上げた市松人形四十八体、洋服抱人形四十五体が和やかに迎えてくれた。いずれも着せ替えができ、人形を身近に飾る楽しさにあふれている。他に手染めの優しい色合いの布を使った白雪姫、親指姫、青い鳥など童話の世界を表現した固定ポーズの作品も数組あり心をなごませる。また出品者全



員の合作としてミニ人形数十点を作り、ブランコに乗ったり、シーソーや滑り台、ままごと、釣り、三輪車、おにぎりを食べるなど、野の草花を配した中にさまざまな着衣の子供たちの集う風の子広場も設けてある。人形の持つ優しさ、楽しさを味わえた作品展であった。(K)

左川雅子創作人形展

「FLOWER」貴方へ」

6/13~6/18

ギャラリーVeronica (大阪心斎橋)

「アフガン」遠かなる子供たちへ」に続く、二度目の個展である。ヨーロッパとアジアが混在する、トルコ系の人達に魅かれて度々重ね、前回の個展では、アフガニスタンの子供たちの表情を、人形に託したが、政治的にも注目されている国名のタイトルに、観客の視線も話題も注がれ過ぎた。そこで今回は、フラワー。ひまわり、ライラック、チューリップなどの名を付けた人形が十五体、花畑さながらに、会場を取り囲むようにして並んでいる。フリーのパタンナーとして活躍する作者に

REVIEW

鈴木千賀子木彫展 く愛と祈りの詩Ⅱ

6/17~6/22

サエグサ画廊 (東京・銀座)

会場は、まるで森林の中に佇んでいるかのように木が香る。鈴木さんの木彫作品は「弥勒菩薩」



とって、衣装はお手のものだが、各々庭、これも自作のペーパーフラワーが添えられていて、おしゃれな街角のギャラリーにふさわしく、あでやかだった。三体の人形による三様の視線が少し危なげな「芥子」。ペイビープレスと言う言葉をもつ「かすみ草」は、閉じたまぶたの下の眼球を見せることもなく、不思議な色香を漂わせて眠っている。

(A)



薩「釈迦三尊」「如意輪観音像」などの有名な仏像をメインとして、「聖母マリア」「キリスト降誕」など宗教的題材を扱ったものや、「花の精」「帰信」(小川幸鐵の戯画より) 他二十一点が展示されていた。中でも父の供養を願ったという「十一面観音菩薩」は一メートル近い大きさがあって、作者の力の入れ込みを感じる。仏像は資料を参考にしたが、特に制約を気にせず彫られたということで、確かに既存の仏像とは若干違和感を覚える。しかし逆に自由な立場ゆえ、作者の大きな素朴な気の良さが伝わってくる。見た人が温かい気持ちになれるような作品を彫り続けたいという鈴木さんの願いが、その顔にはよく現れているように思えた。鈴木さんは造形作家の友永詔三氏に師事。木の操り人形の製作から始まり、国立劇場で文楽の頭を修行するなどして現在に至っている。(小磯十小川)

風(第一章 気ままだに吹こい) 5/14~5/19

ステップスギャラリー

(東京・銀座)

稲辺智津子さんの教室の出身者の五人によるグループ展の第



一回目。出展者は、大島はるみ、金井賀江、石原みどり、鳥海麻子、早川茂子、小山まり。習作などの初期作品も含まれ、年代も広がりがありそれぞれの個性が現在に至るまでの変遷がみられた。小山さん、鳥海さんは若い同世代の感覚を生かした球体関節人形を、早川さんは、一貫してバレリーナをテーマに、大島さんは華やかな女性的な感覚をベースに多様な表現に挑戦、金井さんは情感溢れるポーズ人形を、石原さんは作者の温かな視線と観察を感じさせる作品で、次回はそれぞれの技術と内容をより深めていって欲しい。写真は石原さんの「おけいこ」(小川)

平井民子創作人形展

LESSON ONE

7/1~7/10

昔人形青山ギャラリー

(京都・北区)

伝統工芸もしくは、市松人形系の作家が多い関西、ことに京



都にあつて、珍しく、妖しくて危なげな、少女世界の人形である。粘土の白さを生かしたかったという事で、ボディは勿論、眉も唇も着色されていないが、違和感を覚えないのは、正確なデッサン力に裏付けされた彫りの深い顔造りによるもので、結果として、顔の中では唯一の色となった眼珠の色の奥深さが、際立った。タイトルから分かるように、初めての発表であるが、粘土の白さを全面に押し出すことに割り切った分、面相書きも洋服の正確にも手間をとられることなくボディ造

りに専念できたことや、等身大や大きめの人形もあつたが、白い肌には黒布を多用した立体的な展示方法で、インパクトの強い初個展となった。作品を自ら撮影した写真も好評で、人形と写真という表現は、いかにも関東の作家による展開を思わせるが、着色されない白い肌をもつ人形といえば、胡粉の白さを行かした江戸時代の御所人形や雛人形にも通じる所があつて、意外な部分で京都らしい作家なのかもしれない。(A)

相馬宏充(イラスト)・棚野幸知(人形)二人展 7/9~7/14

せ・ら・る (東京・青山)

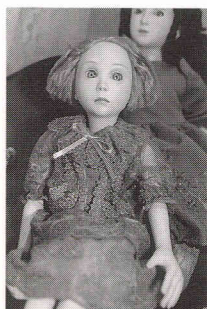


古本屋で見つけた黒澤明監督の白黒映画作品『七人の侍』のパンフレットで待たたちの鎧の色が赤であつたと知り、その赤い鎧の再現を目指して造られた人形が棚野氏の『菊千代』である。鑑賞用ではなく手に持てるものを、映画のラストシーンを再現すべく雨に濡れてもよいように特殊プラスチックで造られている。また鎧の止め具に本物の象牙を使用したり、添え付けの銃を実際と同じ素材で造つたり、人形の髪の色を、三船敏郎が、中央だけかつらで左右は自毛を使用して髪の色が違ったのを再現したりと、細部までこだわりが感じられる。人形は他に安徳天皇と鑑武者、耳なし芳一など六人ほどのからくり人形が展示されていた。

教室展 藤井路以教室展 5/12~5/18

ギャラリーオガタ(東京・銀座)

人形とイラストを含む九人の生徒による教室展。人形は六人がそれぞれ二・三体を出展。球体関節の人形が中心で、ファンタスティックだが全体がこじんまりまとまつてしまった印象なので、それぞれの世界を立体的に見せる工夫がほしい。正面入口には、本誌9号の表紙で紹介した藤井路以さんの新作が展示された。写真は太田庸子さんの「カノン」。(小川)



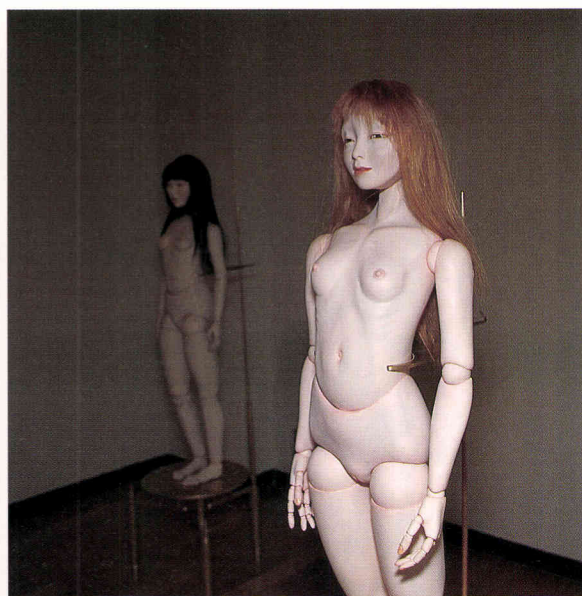
取材・文 小川・小磯

アルファベットは寄稿

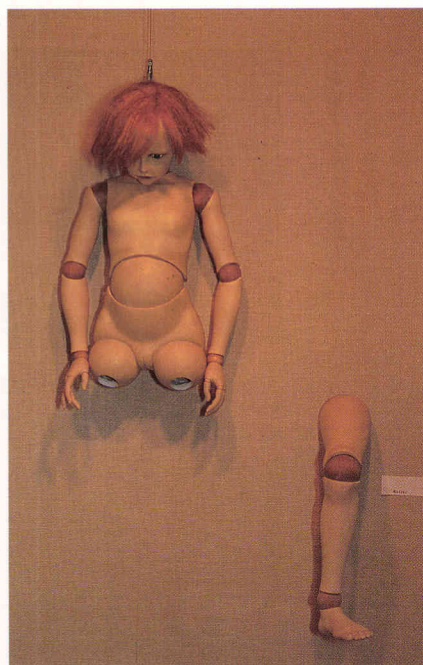
いれるそうだ。最近では『ガメラ2』に自衛隊員役で出演している。相馬氏は大林宣彦監督作品を中心に活躍中のイラストレーターで絵巻風に描いた「七人の侍」や、映画のイラストなどを出展。(小磯)



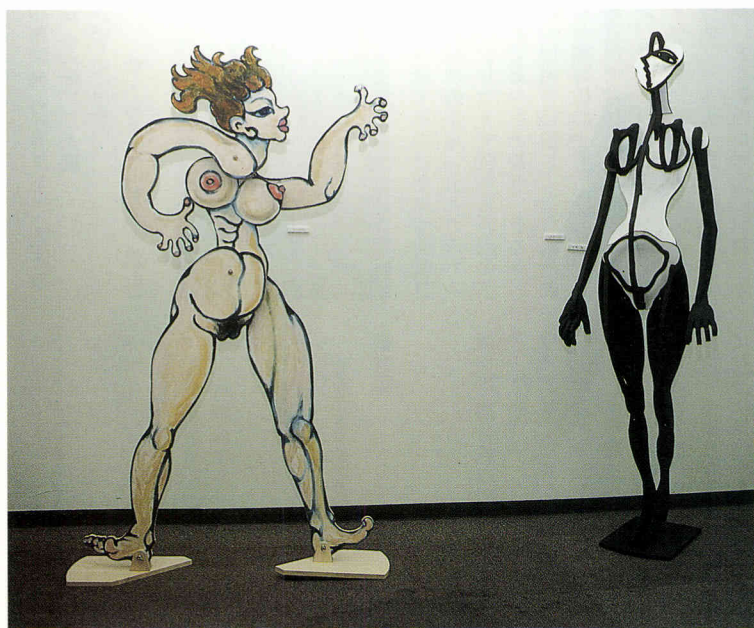
大森小夜



加井丹彌



山吉由利子



本木木展

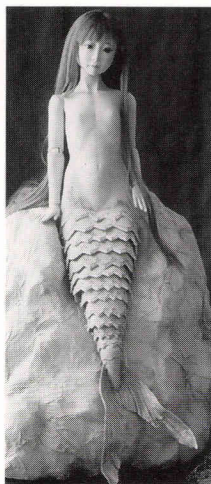
6/24~6/29

ギャラリーモテキ(東京・銀座)

ひよつこりひよたん島の人形美術で名高い片岡昌氏の参加したグループ展。本を素材とする佐藤貞男氏、野村慧氏、向井勝実氏らが参加。現在も人形劇団ひとみ座で活躍する片岡氏は、多忙な合間をぬい、積極的に造形活動を行い発表を続けているという。表現する対象がヒトガタであるということだけで、常に色々な素材で新しい表現を試みているそうで、今回はオリンピックにちなみ、スポーツをテーマに平板を組み合わせた可動式の等身大のオブジェ三体を展示した。氏の自由さとユーモアが、伸びやかな線と鮮やかな配色に感じられる。写真は左が「フリースタイル」、右が「しろくろシ

COMING ON THE SCENE - 新人紹介 -

小林とむぼ



右 アリスⅡ 約90cm, 球体関節 石塑

左 海に... 80cm, 球体関節、石塑、樹脂粘土、和紙仕上げ

稲辺智津子さんの教室に通い、人形制作を始める。写真の「海に」で今年の創作人形協会展で新人賞を受賞。同作品では、制作において工芸を意識し、鱗の部分も1枚1枚可動にした。8月に上野の東京都美術館で開催されるインターナショナル・アーティスト・クラブ展に出展。「アリス」は本人の好むテーマで、この後も制作を続ける予定。誰かが連れていきたいくなるような愛らしさがテーマ。イノセントな愛らしさの魅力を損なわずに様々なテーマに挑戦して欲しい。



MARKET AND CONTEST

(4月~8月)

展示即売会

★ドルスバラード

世界の人形展 6/24~6/29
丸善日本橋店 (東京)



ハンナ・ゲーツ (ドイツ) 1体36万円
問合せ 03-3691-3572

ドルスバラード恒例の世界の人形展。今回は趣が少し変わり、海外のアーティスト・ドールを積極的に紹介した。日本では初めての紹介になる一体ものや限定制作の人形、また現代人気作家のレプリカなどが展示された。日本の作家では、三輪輝子、若月まり子、滝康子、小林美枝子、福島弘太郎らが出品。アンティークドールやレプリカも、通常通り展示された。

★グランパバ

世界のドール・フェア

6/15~7/7

グランパバ南青山本店 (東京)

会期を前後に分け、ヨーロッパとアメリカの限定制作のアーティストドールを中心に紹介した。ベビードールの人気が高く、ドイツのスタン・アメリカのターナーは好評だった。グランパバは、10万円以内でも買える普及版のアーティストドールも積極的に紹介、津川コレクションにあるシュミットの普及版の四季の衣装をつけた少女の人形は72000円。マークスザップ社の品揃えは抱負。詳しい案内が欲しい場合は、申し込みば入手可能。カタログによる注文もできる。問合せ03-3475-1388 * 9/18~9/22 延岡店 (宮崎)、松山店 (愛媛) でもドールフェア開催



シュミットの普及版 58000円



★とおりゃんせ

謡ふまなざし展

7月25日~8月11日

とおりゃんせ (群馬県桐生市) 恒例の夏の人形展。今年金子みすずの詩集をモチーフに、布を素材とする小林美枝子、小牧多賀子の作品を中心に紹介。小林美枝子の西洋のメルヘンを、小牧多賀子は振り袖を着た猫の連作などを出品、人気を集めた。偶然金子みすずの詩「わたしと小鳥とすずと」にぴったりのイメージの重なった作品 (写真) は同展の顔となった。(小牧作品はほとんど完売)
問合せ 0277-22-8777

コンテスト

◆第6回

創作紙粘土全国作品展

7/23・24

主催: 創作紙粘土協会

会場: 新大阪駅前中央ビル

まさしく百花繚乱の着想と表現が華やかな作品が、各人形教室ごとに計500点。創り手の楽しさが伝わってくるような愛らしい花々や人形たち。幅広い作風の中で、完成度が高く技術的に際だった彫刻的作品が、人目を引いていたようだった。今回のグランプリは、山田文子さん。バロック風な味わいのある大作。色彩も素直に美しい。(K)
* 今回の出品図録は、全国手芸店にて販売 (1800円予定)。又は電話で連絡すれば通販も可能。

tel 06-996-5171 創作紙粘土協会

* 今後の作品展の予定は、残念ながら今の所ありません

前回グランプリの川崎裕子さん作品



結城美栄子

去る5月に新宿のパークタワーホールで「賢治ワールド-窯の中のイギリス海岸」を終えた結城美栄子さん。100体の陶人形の制作だけでも大変なのに、プロデューサーとしてスポンサーとの交渉、宣伝、空間演出やスタッフの管理など全てをこなしたパワーは、並大抵のものではないだろう。それは、テレビなどで馴染みの彼女のイメージからは想像しにくいかもしれないが、自由奔放で、見る者に強烈な印象を与える彼女の陶人形を見れば納得のいくものである。芸術を愛し、西洋文化に造詣が深く、教育問題にも関心を寄せる素顔の結城さんに、お話を伺った。

インタビュー・文 小川千恵子



まなづるとタリヤ
写真 五十嵐 真

賢治ワールド

■ 結城さん自身は人形ということに何かこだわりを持たれていますか？例えば、私のは人形じゃないから人形誌なんかに乗せないで、という方もいらっしゃるの。

結城 別にあんまり関係ないような気がするんですけど、なんでも。彫刻と想ったら彫刻って思えばいいし、人形だと思つたら思えばいいし。あまり意識して作ってないんです。だから役者をやつて、なんで陶芸やるかっていわれても、別に違うこととは思えない。手段は違うかも知れないけど、内容としてはやつぱり本当に人に感動してもらいたいとか、人に今自分が感じていることをわかつてもらいたいとか何か創造したいという気持ちですか、そういうのは同じだなんて思うんで、別にギャップを感じないし、また、役者をやめてそういうものを作っているとも思わないんです。

■ 去年一年間は『賢治ワールド』のために、お芝居のお仕事を中止されたということですが、結城 中止っていうこともないんです。テレビでね、NHKのBSの『スペイン焼き物紀行』というレポーターみたいな仕事をやってたんです。でも百体を一年弱で作ったものから、それに追われたんです。

■ でもその『賢治ワールド』の話があつてから賢治を作ろう

となさつたのか、それとも自分で元々賢治のものを作りたいと思つてたんですか。

結城 私、賢治のことを一般的なもののしか知らなくて。でも私の作品を見てくれている人達に賢治のものを作つてみたらというふうには言われたんです。で、そうかと思つてるときに、盛岡の雫石という所に『賢治ワールド』というレジャー施設ができて、そこに『ホテル森の風』っていうホテルができた。その会長さんから、結果的には注文があつたものですから、それで読み始めたんです。読んでいくうちに、彼には農民運動だとか宗教的なこととか色々な面があることを知つて、そうこうしているうちにある雑誌の取材でイギリス海岸というところで撮影することになったの。

私はイギリスに四年間いたものですから、それでも、いろいろ想像して行つたんです。うしたら本当に普通の日本の川で、そこにすつといたら、賢治がおそらくものすごく西洋に対して憧れている時期があつたんだな、と。たとえば生徒などをつれて来て、ここはイギリス海岸だとか言つてね。きつと日本の川を通してイギリスの風景とかを見たり、本やいろんな文学を読んで、ヨーロッパのことを知つて。たとえば銀河鉄道でもジョバンニとかカンパネラが、いろんなところへ行く間の風景の描写など、私はスウェーデンにもいきましたが、スウェーデ

ンの田舎などと同じ描写だった。りするのはすごく不思議でね、見たこともないのに。それですごい想像力の持ち主だなということもわかりました。

西洋に対してそういう憧れがあるんならば、それを切り口に逆探知式にとつてみて、私が制作をするのに選んだのは『カドロフの百合』ですとか『注文の多い料理店』とか『銀河鉄道の夜』とか、わりに西洋的雰囲気を持つ作品でした。

■ 私『賢治ワールド』を拝見させていたいて、最初にすごいなと思つたのが結城さんのエネルギーです。今まで人形作家の人形ばかり見てたものですか、今回結城さんが展覧会を全部プロデュースなさつて、いろんなスタッフの方を動かしてそして、あれだけの空間をお作りになったという、トータルでみてものすごい方だなんて思つたんです。

結城 プロデュースのこと？それまでは俳優の事務所にあたんですけど、そこをやめちやつたんです。なぜやめたかというところ、やつぱりもつと自由な、陶芸寄りの活動をしたいなと思ひまして。それで自分で一から十まで一つの興行としてあれをやつてみようと思つたんです。いざやってみると、すごく大変で予算がすごくかかるんです。ですから予算を作るところから始めたんです。

いろんなスポンサーにあたつたんだけど、腰重くてね、で

も社長さんに直談判しに行つたりして、それも一社じやなくとにかくその入場料で利益を出さなきゃいけないから、宣伝をしなくちゃいけない。今までは事務所任せとかそういうことだったんですけど、自分で全部それもやつたんです。

だから例えば朝日新聞とか、記者のところを書いてもらうように頼みに行つたり、テレビのNHKにもアタックしました。最初はNHKニュースに出したいと思つてアタックしてただけダメだったんですよ。そうしたら『おはよう日本』っていう朝の番組のアナウンサーが『週刊読売』に出た記事を見て、それで「あつ、これは面白いからやろう」ってむこうから言つてきてくれたんです。それで九日間で九千人入りました。

会場（新宿パークタワー）は場所がまだあまり知られてない。交通の便が悪いしね。そういうリスクがあつたんですけど、あとはやつぱり人の輪ですよね。本当にいろいろな友達とか、解散したての自由劇場の研究生の人とか製作の人とか、色々な人が手伝つてくれて。あと、主演者の方も。夜は人形だけじゃなくて宮沢賢治の詩を朗読したり、コンサートや短い芝居をやつたりしたんです。吉田日出子さん、丘みつ子さん、及川恒平さんとか、花澤徳衛さん、朝倉摂さん、阿部良さんと、そういういろんな人に、そ

れぞれやっていただいたんです。それも全部放送しました。

そういうふうな、ひとつのテーマを作り上げてくつていうことはすく大変だなあとは思ったんですけど、ものすく面白いです。

それでいちばん感動したのは、『子供毎日新聞』が取材が来たんですが、そうしたら子供がいっぱい来たんです。それで子供には感想文を暇な時に書いてつて私の自宅の住所を全員に渡したんです。そしたらね、渡した人全員が感想文を書いて送ってくれたんです。それをとつてあるんですけど、もうすくかわい絵が描いてあったり、結城さんの作品を見たらすく面白そうなので、宮沢賢治を全部買って読むことにしましたとかね。それからあの「工作」は大好きで、あれを見て自分も将来彫刻家になることを決めたとか、絵描きになることにしましたとか、なんかこう熱意があるつていうか、子供の。6歳ぐらいの子からも来たんです。もう封筒にまで絵が書いてあるんです。

■ すごくですね。

教育のこと

結城 だからそれがすく励みになった。嬉しいつていうか、それが本来は大きいねらいではあるんですよ。外国の教育つていうのは、美術館にね、頻繁に先生と一緒につて、感想文を

書いたり、模写をしたり。自分の絵を描いて美術館に売つたりつていうこともよくあるんですね。あとは例えば勉強でも、本を読んで感想文を書くつていうのがメインぐらいに頻繁にある。そこから自分の意見や考え方を持つ。

日本の私の子供の受けている教育を見てると、自分の意見とかものの考え方つていうのはさつておいて、要するに数学とか、漢字を暗記するとか、なんか文章を暗記するとか、詰め込み主義的な教育です。自分からものを考えて、自分はこれが好きだとかそういうことはあまりないですよ。それが今後ね、恐いことだと思つ。こういう子たちが大きくなつてきているわけだけど、片手落ちつていうか、日本の文化つていうせつかく素晴らしい文化があつたのに、それがダメになつちゃうんじゃないか、危機感があるんです。

だから子供が美術館とかに對して興味を持つてもらいたいと思つてるんです。それにはそのいきなりピカソとかいつても、感性の良い子なら熱中するかもしれないですけど、まあ一般的には、たまに美術館なんか行つてるような子を見てると、駆け回つたりギャーギャーいつたり、絵を見る子は少ないと思つますね。だからもし、その前段階として橋渡しみたいなかたちで、私の人形が子供の興味を引けるならば、今度は次の段階につていうふうになつていけ

たらすくいいなあと思つてるんです。

それからもうひとつは、子供の時に童話とか、子供の文学を読むつていうことはすく楽しいことだつていうふうに思つてますよ。自分が子供だつた時のことを振り返ると。だけどそれが今はやつぱりマンガとかテレビ、ファミコンとかに変わつてきている。『宮沢賢治』というのはすく不気味だけど面白いかな

ね。私の『注文の多い料理店』とかを見て、子供なんか「ええつ、気味が悪いよ」とか、「ほら、猫の目の中に旅人がいるから怖い」とか、泣いちゃいそうなんじゃないんですか。そういうことが大切だと思つてます。



今の子供たちはテレビで人が殺されるとか、そういうショッキングなことはあるかもしれないけど、美術を見てとか、何か

あつて思わせるとか。例えば次に私は『マザーグース』をやりたいと思つてるんです。『マザーグース』つて恐いけど、いろんな想像ができるつて、そういう提案みたいなことも定期的にやつていけたらいいなあと思つてるんです。

人形を作つたりなんかする場合に、かわいとかきれいなとかということよりも、自分が言いたいことを全体で表現する方に行つてるかも知れないです。

ものを思つてこつ驚いたりつていうことはあんまりないような気がするんです。そういうショッキングはそれでいいんじゃないかなあつて思つてます。

■ 私は結城さんをテレビでたくさん拝見しましたが、大人向けのドラマが多いから、例えば老人のシワに愛着を持たれるつて書かれていたことから、作品は自分の年代から上を志向して表現なさるかなつてつて考えたのですが、実際は子供がとつて

も多いですよ。お子さんがいらつしやる方だから子供を中心にした作品になつてるのかなと。

結城 自分の子供もそうなんですけども、大げさに言えばやつぱり日本を考えたとき。例えばヨーロッパなどに行つてると歩いてるだけで楽しいんです。というのは、建物が美しいとか、それだけでお金がなくてもただ歩けば楽しく過せる。なにか雰囲気があるじゃない。

だけど日本はそういうものがなくなつちやつたんです。東京や日本のどこの都市に行つてもそうだと思つけど、すくもつたないことだと思つてます。もともとない国ならしょうがないと思つてます。でも昔の文化、そういう意味じゃ京都など昔の文化はすくかつたんですよ。子供のころ青山にもそういう雰囲気があつたと思つてます。でも今はもうないんだと思う。なんの配慮もないし、こつち側に紫のビルを建てたら、こつち側にはピンクの家を建てちゃつたり、看板はメチャクチャだし。何も考えてないじゃない。こういうことつていうのはやつぱり子供のときからのことじゃないですかね。

■ ええ。

結城 そういうものを取り返すつていう時期だと思つてます。国が企業を伸ばして経済大国にするために大切なことを忘れちゃつて、片一方はできちゃつたけど、それつてすく幼いと

思つてすよ。ヨーロッパの古いギリシャなんかに行つて、それはそれなりに経済的に恵まれてないかもしれないけど、いちばん大切なことつていうのは常に忘れない。みんな大人なんです。日本人の場合、ワーッととなるとそつちの方だけいじやないですか。そういう意味で今はパブルがはじけていろいろなものを見つめ直さなきゃいけないつていうふうになんが思つてる。そうしたときに何を見つめ直さなきゃいけないつと、若い感性をもつた子供じゃないかな。

■ 偶然じゃないかもしれないんですけど、四谷シモンさんが、これから心の教育がすく大事だつて、同じ様なことをおつしやつていました。私、何かをゼロから作りだすことができる方つていうのは、人の心とコミュニケーションする方法を持つていて、何かを変えたいという働き方ができるんじゃないかなと思つています。

制作について

■ 焼き物を選ばれてお作りになつたきっかけは楽屋での待ち時間に、粘土をいじつていたのがきつかけだつたと伺いました。が、焼く陶器にこだわられたのは、何か理由があつたのでしょうか。

結城 一番最初は紙粘土でやつていたんです。でもよこれちやつたり存在感がちよつと薄

かったから陶器でやりたいと思ってたときに、陶芸教室の前を通りがかったんです。それで6カ月くらい通ってお茶碗とか習って。焼く段階は、まだそんなに長くやっているわけではないし、窯も持っていないし、幼なじみの瀬戸の陶芸家の所で焼いてもらったり、教えてもらって自分で焼いたり。

■ 焼くことに関しては、非常に奥の深い世界だと思いますが。

結城 化学みたいな世界だから、むずかしくて。私は、三人くらい焼いてくれる人がいて、自分のイメージを伝えてその通りに焼いてもらう。それで、もうずいぶん長い間一緒にやっているから、大体この人には頼もうとか、そういうふうに出てやっています。

■ じゃあ、焼き上がったときに、この赤はこういう赤で出て欲しいとか？

結城 そう。

■ 色がずいぶん鮮やかですね。また、怖い感じっていうのがよく出て、ほんとに怖いなと……(笑)。陶芸を始めたのも、人の姿をお作りになられたかったんですね。

結城 そうです。

■ 最初はご自身のイメージが、いろいろあったと思うんですが。例えば、今回『賢治』っていうひとつのテーマがありますが、最初は漠然とお作りになったのではないかと思うのですが。

結城 いえ、一番最初、紙粘土でやったときも、ちゃんとあつたんです。舞台を作りたいと思って、『真夏の夜の夢』の舞台を作ったんです。大きい木の箱を作ってもらって、下にキャスターをつけてもらいました。真ん中に舞台と楽屋の境をつけて、舞台の所には本当に赤いピロードの緞帳にして、本格的に作ったんです。袖にも紗幕を作って、森を作って、森の中にタイタニア、ジュー、馬になったボトムなどを置いて、あとは妖精をみんな糸で吊したり……。キャスターで動くから大きい箱だったんですけど、ガーと動かすと裏は鏡がいっぱいある楽屋になっていて、色々な役者がいて、落ち込んでいる役者とか、一生懸命お化粧をしている人や、鏡のところに、ラブレターが書いていて鏡のところにふさいであったり、そういう役者の実態みたいなものを人形で作ったんです。

あとは中国の唐子を十点ほど作ってみました。それは磁器でやっただけですね。染め付けで絵を描いて、柄を描いて。そういうことをやっているうちに湾岸戦争になって、パブルがはじけたぐらいの時期には、麻布美術工芸館で「カーニバル」という個展をやったんです。娯婦とか、道化とか皆がワーツと踊り狂っているところを作ったりしました。それに顔は鴉で笛を吹いている2メートルぐらいの大きいカラス男も作ったのね。そ

れが、『ハメルンの笛吹き男』にだぶって、今の現代に疑問を持つていて警告の笛を吹いているんだけれども、その踊り狂っている人は誰も聞いていないく、ただ一人だけ真っ白い男の子が目をつぶって、じっと聞いているというふうなのを作りました。

それから、湾岸戦争で油まみれになった鴉の鳥が、飛べなくなったでしょう、あれを小さな女の子が死んだ鴉の鳥を抱いて



いる人形だとかね。その時代の、テーマが必ず何かあつて作ります。

■ 結城さんの作品で、中から出てきたものがストリートに全部表現されていますね。日本的な表現はデフォルメして内に向かっていく、例えば、能面のように普遍的な表情から中を読みとってということとを要求されますよね。それが逆に、結城さんのものは見るとすぐわかりま

す。ものすごく自由に表現されているものだから、それがかえって小気味いいぐらいです。私から見ると、今度の賢治ワールドはそういう魅力が、全部結集されたんじゃないかという気がするんです。申し訳ないんですけど、唐子とか真夏の夜の夢は見たことがないんですけど、多分そういう所々でやられていた造形の冒険みたいなものが、全部、賢治ワールドのほうで結集されたんじゃないかなと

す。ものすごく自由に表現されているものだから、それがかえって小気味いいぐらいです。私から見ると、今度の賢治ワールドはそういう魅力が、全部結集されたんじゃないかという気がするんです。申し訳ないんですけど、唐子とか真夏の夜の夢は見たことがないんですけど、多分そういう所々でやられていた造形の冒険みたいなものが、全部、賢治ワールドのほうで結集されたんじゃないかなと

解釈しているんですが、いかがでしょうか。

結城 ああ、そうかな。

好奇心

■ 確かに賢治の世界と結城さんの表現の内容は、すごくあっていたんじゃないかなと思うんです。文章の中の賢治の文学つていうのは文字というよりも、抽象的な表現に通じるものがある

るっておっしゃっていましたよね。結城さんの作品もそうなんじゃないかなと思っただけです。形にはなっていますけれども、それが音楽になったり、何かまた違う芸術に解釈されるような、そういう何かひろがりがあるんじゃないかと思うんです。それは、ご主人が音楽家でいらつしやるということも関係しますか？

結城 あの音楽を作っています。会場の音楽です。

■ そうなんですか。

結城 毎回会場の音楽は主人が作っています。

■ 結城さんご自身は、どのような音楽がお好きなんですか。

結城 いろいろ音楽が好きです。ジャズ、クラシック、別にこれって決めないの。歌謡曲はあまり好きじゃない。

■ 今、何か製作で特に苦労されている点で、何かございますか。逆に非常にこれが良くてやっているとあります。

結城 楽しいんですよ、とにかく。作っていると嬉しくてしょうがないというのか、本当に時間がたつのを忘れてっちゃうつていうか。

■ 結城さんという、やっぱテレビの役柄のイメージが非常に強いものだから、そういうキャラクターと、どうしてもイコールで考えてしまうんです。わりと気の強い役で、でも実は見栄を張った寂しがりや、という。でも本場の結城さん

いうのは、常に子供のことや芸術の世界にひたつていらつしやるんです。

結城 わりと好奇心が旺盛なんです。かなりいろいろなことに熱中するというのが、今は太極拳をやっているんです。

■ 太極拳？

結城 毎朝8時から9時まで、もう8年くらいやっています。もう十何年もやっているのが瞑想ね。TMフランセン・デジタル・メディテーション、超越瞑想というインドのマハリシという人が開発した、現代人のための瞑想修行や、いろんなことをやっているのね。

■ それが全部一つにつながっているということなんです。誰か特に尊敬されているアーティストとか気になる人とかいますか。

結城 やっぱ、ピカソ。彼は自由な人だと思います。どんな、どんな変っていくじやないですか。普通のアーティストというのは一つのスタイルを作っちゃうと、それを壊すのが怖いの、壊せないのか分からないけれど、大体決まっちゃうんですよね。だけど、ピカソつても

のすごく変身する。もちろん天才なんだろうけど、そこはすごいなと思う、自由だなと思う。自分に縛られなくて。

一番自由なことつていうのは自分に縛られないということ。人に縛られたり、物に縛られたりしても自分でほどくことができるけれど、自分に縛られちゃ

うということが一番不自由なところかなと思う。だから、そういう意味では本当に自由な人だったんじゃないかなと思う。

■ その自由さというのは結城さんが求めているものと通じるものがあるんですか。

結城 本当は求めたいけれど、難しいと思いますよ。

■ でも、まず俳優として表現活動をされていて、それからいきなり人形を作られて、あれだけの世界を表現されて。この間、「人形芸術の世界展」というのがありましたが、あの図録の中で国立近代美術館の方が、これからの新しい人形像として、結城さんに期待をしている書き方をされていましたけれども、私もわかるような気がするんです。それは、ピカソじゃないですが、何もとらわれずに自由な発想で、自分のコンセプトというのをしっかりお持ちで、表現したい世界がこちらにもはつきり見えるんだと思うんです。

結城 日本の人形を見ていると、昔の人形とかいいのはものすごくいいと思うんですけど、今の紙粘土等を使っている人形？すごく技術が達者だと思うんですけど、みんな同じように見えちゃいます。要するにその先生がいて、その先生のテクニクで習って、その先生はすごいんだろうけれども、その流れで来た人たちとかは、みんな同じにできちゃうから、そこはすごくつまらないなと思

う。もつとオリジナルに自分のもっているものでなんかやつたらもつと素敵、あれだけのテクニクがあるわけだから。

■ そうですね。ひとつの憧れだと思いませんか。私もよく新人の人にアドバイスをするんですが、やつぱりどうしても似てしまうわけなんです。でも似ているからって全くそっくりなわけではないから、迷っていたりするんだしたら、いろんな人のコピーを、いろんな素材でやつてみたらと言うんです。

■ そうするとどうしても自分の顔って出てきちゃうから、はみ出したものをかき集めて自分のものを探してみたらどうですかという。全ての芸術は真似から始まっているという言葉もあるから、真似は悪いことじゃないという言い方もあります。そこは私もいつも悩むところなんです。確かにせつかくそれだけの表現をする技術を持ちながら、自分のものをどうしてどんと出そうとしないのかなと、それはやつぱり日本人独特の心情というか、人から目立ちたくないみたい。

結城 それはすごく、おかしいよね。だって物を作るということは。

■ そうなんです。表現活動なのに、今はお教室が多いんですね、先生との関係がいろいろとあるようです。

結城 先生はみんな同じ顔を作れというんです。逆

■ そういう先生もいます。逆に生徒のほうが先生の作品にすごく憧れていた。シビアな意識をもって自分のものを作ろうって思っている人は、あまりいないんじゃないかなと思います。多くは真似つづけて何かうまくできていれば、みんなが褒めてくれてそれで終ったと思うんです。

結城 ああ、そうですね。

■ それはちよつと問題かなと思うんですけど。

ただ人形って、すごく自由な表現手段だと思うんですよ。日本はとにかく人形の定義に関して非常におおらかだから、彫刻になろうと思えばなれるし、それこそ手慰みの人形でもあるわけだし。でもやつぱり持っている人との関係というのがい

ばん大事なものであるから、そういう意味で、人形っていうのは表現の方法として色々な可能性っていうのを秘めているんじゃないかなと。今すごく混沌としてますけど、混沌としている分だけ、すごく可能性があるんじゃないかなと思ってい

ます。だからそういう意味では、みんなもうちよつと冒険してくれてもいいんじゃないかなと思うんですが。

これから

■ 今後のご予定は…。

結城 一つは「マザーグース」というのをやろうと思っています。もう一つは、もしかしら「佐渡」です。佐渡島ってありま

すよね。あそこ色々な民話とか、あるいは魚で表現する話があるんです。近々、一度行ってみるんです。どういう所か、どんなお話があるのかとか、テーマを探さなくては。

もう一つ夢があるんですけど。それはさつき言っていたようなことで、子供とか、中学生、高校生ぐらいまでのすごく自由なアートスクール。例えば、すごく感性のいい絵描きさんとか、陶芸家とか、先生になれるような大人がそこで仕事をし

て、土日の休みとかに子供たちが中にわつと来て、今日は絵をやろうとか、今日は陶芸、何か作ってみようかと思つて、選んで、その先生の周りで、全く分からない子にはその先生が、「こうやってやるんだよ。土はこうやって練るんだよ」とか、そういうぐらいのところまで教えて、自分でいろんなことをやつてみる、アートスクール。そういうのが将来できたらすごくいいな。人形作りたい人は私が作っている側と一緒に作るとか。

■ すごく夢があつていいですね。結城さんの作品をみるには？

結城 今回の賢治ワールドは全部 雫石の『ホテル森の風』で、ギャラリーを作ったんです。そこに全部一括で展示させて貰いました。もし見に行きたい人は、盛岡の駅から『賢治ワールド』というバスが出ているんです。それに乗っていくと、まず

賢治ワールドに行つて、そのまま乗つてすぐ上の『ホテル森の風』。雫石なんです。そこにあります。そのギャラリーに大体あつて、他はホテルの中や、バーの中とか、いろんなところ

に…。

■ それも楽しいですよ。いろんな場所に、あちこちあるつて。

結城 まず地図を渡されて、その地図にホテルの地図があつて、どこに何があるつて写真が出て、宝探しみたいに探せるわけです。あと、新宿のパークハイアットホテルをご覧になりましたか。

■ いえ。

結城 パークタワーと同じビルなんですけど、その作品はかなり大きいんですよ。正面玄関に、これくらい大きい、百五十センチぐらいのお面があつて、中のエントランスの所に八体の彫刻があつて、大きいんです。壁にレリーフみたいに。エレベーターの中にお面が三個ずつありまして、一番大きな部屋、スイートのドアのところにもお面が二個あつて、全部で二十個。パークハイアットは、ホテルナンバールに選ばれたつてことです。すごいセンスがいい、アメリカ人のデザイナーがデザインしたんです。私のは人形というより彫刻という感じ。

■ でも、ご本人はあんまりこだわりのないわけですね。

結城 ええ。

結城美栄子 略歴
七十七才まで外交官の父、画家の母とともに外国生活を送る。十三才でイギリスのロイヤルバレーエ学校に在籍しバレーを学ぶ。帰国後、俳優養成所を経て劇団「雲」に入団、女優の道を歩み、テレビ、舞台で活躍。陶芸は一九八四年より始める。

一九八六年 結城美栄子陶芸展
一九八七年 結城美栄子展「唐子」
一九八八年 個展「ピカソカス」
一九九一年 「カーニバル 結城美栄子陶人形展」

一九九三年 結城美栄子陶人形展「DREAM 夢の中」
一九九五年 結城美栄子陶人形展「CLOWNS」
一九九六年 「現代日本の陶彫作家展」

常設展示 招待出品
メナード関ヶ原ランド「こどもアートハウス」
ホテルパークハイアット東京（新宿）
けんじワールド「ホテル森の風」

著作
「ピカソカス」（山海堂）
「カーニバル（用美社）」
「DREAM」（観々堂）
「CLOWNS 道化師たち」（ワニブックス）
「賢治ワールド」（平凡社）

「賢治ワールド」

「賢治ワールド」

「賢治ワールド」

..... 人形をどこで買う？

文/ゲイル・エニド・ジマー



コレクター達はどこで人形を手に入れるのか？それは、住んでいる場所や欲しい人形にもよるけど、人形のタイプとその出所の数は匹敵しているようなね。

人形を買うという大事な決断をする前に現物を見るのは大切なこと。品物が高価なものなら尚更だ。でも現実はいまうまいかななくて、人形の専門店がこんなにも増えた割には、コレクターは自分の家からは遠いと嘆いてる。

そんな人達の為に店の方も広告に力を入れるようになり、実際ダイレクトメールや電話の方が店で売るより商売になってる所もある。買ってくれそうな客には写真を用意しているが、これは助かる。

雑誌の広告写真だと小さいし、白黒で多くは人形の頭しか写っていないのだから。そして通信販売はこちらの過失でないかぎり返品も可能だしね。その反面、輸送途中に破損されたり紛失されたりしたら店と客、一体どちらが費用を負担するかもめるといふ問題も抱えている。代金を先払いだった場合、責任はどっちにあるのか？商品の払戻はどうなる？今の所、保険をかけることが賢いやり方だ。

家の近くの展示会でも人形は買えるし、大きな大会へ行つて見るのも一つの方法だろう。しかし、

大会へ行くまでの費用はバカにならないし、人形も一般より高めで売られている。なぜなら業者も宿泊費、交通費、会場費を負担してやって来ているから。大会へ行こう、と思ってもその費用を計算し終えたところでその気も萎えてしまいかもしれない。

でも、私に届く凄量のダイレクトメールを考えると業者はまだまだ売上を伸ばしたがつていいらしい。雑誌から私の住所を手入れたのか、私が買おうとする前に、買わせてやろうというつもりらしい。でもメールの中身は私が集めてる人形とタイプが違うので私は読まずに捨ててしまう。リサイクル袋へ直行！

テレビショッピングというのも気軽な方法だ。申込はフリーダイヤルだし、カードで支払いは出来るし、とにかく手頃。難点なのは、この手軽さから予算以上の買物を衝動的にしてしまうという事だ。商品が後で高く売れるが如くの口調も多く、人々が多いに胸を弾ませるのだが、いざ売ろうとすると値は高くなっているどころか、買った時より安くなつていて驚くのだ。

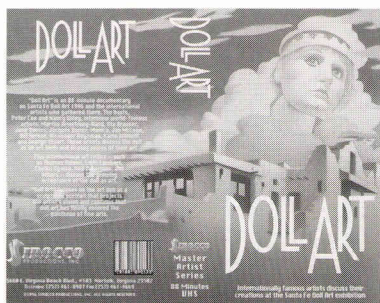
ここ数年の画期的な進歩といえ、インターネットに人形市場が出来た事ではないだろうか。人形雑誌に広告をだす業者もインターネットのアドレスを表記するよう

になつてゐる。コンピュータを持たないという人達も図書館に行けばアクセス可能だし、ネットスケープというソフトを使えばどんな項目でも簡単に探せるようになった。もし、どなたか私にe-mailを送ってくれるなら、私のアドレスは：fah11bees@com

インターネットと人形について書くひとつのコラムが書ける程なので、この件に関してはアメリカの雑誌に寄稿したいと思つてゐる。もう一つ興味深いのはビデオによる人形市場。これも家庭に直結してゐて人形をカラーで見たり、クローズアップでは細かい部分も見ることが出来る。ビデオは大抵大会の後で入手するようになってゐるので、ビデオを目にする頃は人形ももう売れてゐるということがあり、不満が残る。マサチューセツツでフォーエヴァー・ドールズを主催するリサ・メシールはコレクターの為に提案をしてくれた。「大会無縁ビデオ」と称されたこのビデオは今年「芸術的印象」として売り出された。五月十八日の数週間前に希望者に配られ、その日の正午迄は誰の注文も受け付けない、という方法を取った。映像もきちんと書いて、丁寧な解説書と値段表が付けられていた。一一一体の人形があり、値段も一万から六十万円。十万か二十万あたりの人形が多く、全て一

体物であつた。コレクター全員に平等なチャンスが与えられたという事で、評価していいアイディアだ。このビデオがどの位売れ、どの位の人形が販売されたのか、とても知りたいところだ。私は十万というお金を人形に使わないと思うけど、一体何度その位のお金を大会に行く為に費やしたかしら？ 大会に行けば行つただけの価値はあるかもしれないけれど。メシールさんは私達コレクターが宝物の中に宝をもう一つ増やす安上がりな方法を教えてくれたと思ふ。

96 サンタフェドールアートのビデオ



イラストはビル・ネルソン、音楽は和紙人形作家のジャック・ドリエ

訂正・「ゲイルからの手紙」の連載回数を前号まで誤って提示してましたので、今号より訂正いたします。



御所人形 (江戸時代後期・木彫)

人形気分

連載第四回

～い・や・す～

青山恵一

コピーライター(広告文案家)になりたかったが、いつのまにか人形専門の古美術商になってしまつて、二十年が経った。現代の商品でもいえることだが、色々な品物を扱つてきて学んだことは、「あらゆるモノは、需要があるとき、一番美しい」ということだった。江戸時代、参勤交代の大名が天皇に献上した御所人形も、昭和の初め、嫁入り道具として持参した市松人形も、時代背景が、しっかりとそれを要求した。人形の起源である「形代(かたしろ)」と言う言葉は、人形が尊敬や愛の形代わりであったことを、教えてくれる。だからこそ古来日本人は、心を込めて人形を贈った(与えた)。人形とは「与え、与えられる」存在であり、その需要でもあった。それでは、現代の人形の需要とは、どこにあるのだろうか?それはまた、現代の人形作家が、誰に向かって創っているのかという疑問でもある。多分それは「自分自身」のため、と言う答えになる

のだろう。そして、それらを買う側の人の答えも同じだろう。人形とは、かつての「与え、与えられる」存在から「自分自身」のために創り、買われる存在となった。

昨年、東京での展示会の折り、三人の作家が二体ずつ出品してのアップルボックスを設置した。三人三様の人形たちは、各々売れていったが、それらを買われたお客さんは、少なくとも、関西ではあまり見かけないタイプの方々でもあった。どこが違うかと正確には答えられないが、強いて云えば、ライフスタイルの違いということになるのだろうか。それは、住まいや食べ物や娯楽も含めて、それらの人々の新しい生活の中に、現代の人形たちも受け入れられているという事だった。与え、与えられるのではなく、きわめて個人的な動機の人形の需要が、そこには、感じられた。何かを売ろうとするとき、それは、その商品を含めたライフスタイルを、売ることでもある。かつ

ての日本には、人形のある生活が、確かにあった。そして今また、僅かだが新たな芽生えを迎えたのである。声高に、愛や尊敬を人形に託したり求めたりする時代は、終わってしまった。多くを求めることをやめてしまった現代人が、あえて人形に求めることがあるとすれば、それは、「癒す」ということだけかもしれない。癒しの音楽、癒しの文学……多難であった昨年は、ヒーリング・癒すという言葉がキーワードの年でもあった。マスコミに「人形」という言葉が登場する機会も、最近少なくなつた。たまに見かけても横溝正史の映画やテレビのオカルト番組で、苦々しい思いばかりしてきたが久しぶりにキーワードとして、捉えることが出来るのである。「人形は、癒しのエースである」。こればかりは、昔も今も変わらない。コピーライターにはなれなかったが、人形屋も悪くはない仕事だと、思っている。



ひとがた・カラクリ・ロボット展

〈人形・芸術〉考(1)

—「ひとがた・カラクリ・ロボット」展に則して—

〇美術館 学芸員 天野一夫

「人形」は、はたして芸術なのか？

そのような、今日となつては誰もが問うことのない、ほとんどタブーに近い問いをいまさらながらに持ちつづけることで、この展覧会は成立したとも言える。

だがいささか大胆なこのような問いは、たしかに五十年ほど前には、単に人形界だけでなく、社会的に開かれたかたちで議論されてもいたのである。ひとと知る、昭和十年代の人形芸術運動の前後の頃のことである。言うまでもなく人形は、それ以前には社会的に確実に玩具として機能していた。それが、山田徳兵衛・西澤笛畝らの人形関係者や久保佐四郎・平田郷陽・岡本玉水ら作家による白澤会(後に日本人形社)や童宝美術院そして日本人形研究会の結成に見るように、「人形」が「芸術」としての意識を持ち社会的認知を得るために、近代的な体制作りが企てられるようになる。小グループ展・個展・研究会・雑誌発行等々…。一方では女性を中心とした人形づくりのアマチュアリズムの中で、玩具性の中に新たな創造性を発見しようとする方

向へと向かい、また、伝統の職人出身の側でも個性表現が強まる。このように人形は、作家の幅と表現の拡がりの両面で多様さを生んで活況を呈するようになっていたのが、昭和初期の状況であるだろう。その人形芸術運動は、国家の主催する官展の美術工芸部門に入選することを差し当たつての目標としていて、はたして「人形」は昭和十一年の改組第一回帝展に六人の人形が入選したのである。そのような当時の、いわば「人形」の芸術化過程における力オティックな意見には、むしろ「人形」への本質的言及がかいま見えて興味深い。本来職人の共同製作であった人形をどう扱うべきか、「人形」を入れたら盆栽・刀剣はどうか、また逆に第三部彫塑に入れるべきとの意見さえあつた(雑誌「人形人」から)。

そのような人形芸術運動は、ちょうど数年前の、「工芸」が職人芸から芸術に繰り上がるうとした、同じ官展における第四部設立の運動とも連動するものであるだろう(第四部設立は昭和二年第八回帝展時)。しかし、「人形」は当初は出品し

ても認められず、結果的にその少し以前に「芸術」として認知されたはずの他ならぬ「工芸」によって、「人形」は疎まれた形となる。かんがえてみれば、それまでの「人形」が十全に体現していたものこそ、彼ら近代的な「工芸美術」をめざす者とすれば、忌避されるべきものであつたのである。逆に言うなら、その分だけ「人形」には前近代的なアウラへと我々を一挙に呼び戻すだけの磁場も力もいまだ保持していたということだろう。しかし、それだけに「人形」の「工芸美術化」「近代化」は困難であり、その後の現代にまで至る近・現代人形の道程とは、工芸美術となりながらもその人形性をいかに保持するかという複雑な位置を確保しつづけたわけではなないもの

だつたのである。近代的な「彫刻」や、伝統的な「人形」とは一線を画しながらも、そのどちらの領分にも連動する美質。そこに近・現代人形が本来本性上孕まねばならなかつた微妙にして困難なアイデンティティの位置がある。

このように、「人形」は国家の主催する官展に入選す

ることによって「芸術」になりおすことができた。「人形」は身体的な接触をもつた生活世界の中で濃密な関係を結ぶもので、単なる美術品ではありえなかつた。それが、一挙に国の構えの中で、日本国の純粋たる精神を示すひとがたという具体的な存在として認められていったのである。

むしろ私は「人形」を軽んじるものではない。むしろその本来の有様をかんがみ、「人形」が「芸術」としてなりおすことで失つてしまつたものをこそ注目したいのである。

「人形」は今日かんがえられているように、子供の玩具として、あるいは床の間の置物としていわばプライヴェートな場でのみ愛されてきたわけではない。たとえば「生人形(活人形)」とは、まさに「生けるが如し」と評されたように、いわゆる「風流物」見世物の伝統の末期である幕末から明治中期に流行した特異な表現である。大阪、江戸(浅草奥山等)で大当たりをとつて生人形の祖とされている松本喜三郎(熊本出身)の活動には、今日でこそ少しく

日が当たつて来ているものの、近代美術ではこれまでも閑視されてきた。たとえば近代彫刻の代表たる高村光太郎は、そのリアリズムに対して、表層的なものにすぎないとして、代わりに内的生命感の表現という西洋近代彫刻の理念を打ち出している。いわば特に民族的性情の濃厚に残る人形は、いわば近代において隠蔽し忌避されるものでありつづけたのである。

生人形師の家に生まれ、近代における人形芸術の先駆者にして確立者である平田郷陽は、先の人形芸術運動期以後、生人形の伝統技法を活かしながらもそれを芸術的作品として昇華しようとして試みている。そのような郷陽は、制作のかたわらに生人形の先駆たる先の喜三郎の人形を常に置いて制作をしていたという。それは伝統の骨格を踏まえながらも近代的作品を志す、一代で日本近代人形史を生きた人の象徴的姿のようにおもえるのである。

写真 今年二月二日から三月三日まで〇美術館でおこなわれた「ひとがた・カラクリ・ロボット展」の図録。表紙は平田郷陽が制作の傍らに置いていたという松本喜三郎の三つ折り人形



「久しぶりの個展が終わり、ほっとしています。私の好きな人形たちも、ほんの少しの時間でも存在する部屋をもらって満足していることでしょう。私は暑さのおり、ぼーっとしている毎日ですが、彼女たちに色々な服をトランクから引っ張り出しては着せ替えて、人形遊びをしています」

山吉由利子

第6回 シヤカシヤカ狂奏曲

A black and white sketch of a young man with spiky hair, wearing a tank top and baggy pants, holding his hands to his ears. Radiating lines around him suggest a loud sound or shock. The signature 'Dimitris' is at the bottom.

でも現実には甘くない！静かで、おしとやかでなんて、よくも、思いこめたものです、磨きの粉にまみれ、スチロールが雪玉の様に、まとわり付いた姿は、不気味

一応は。

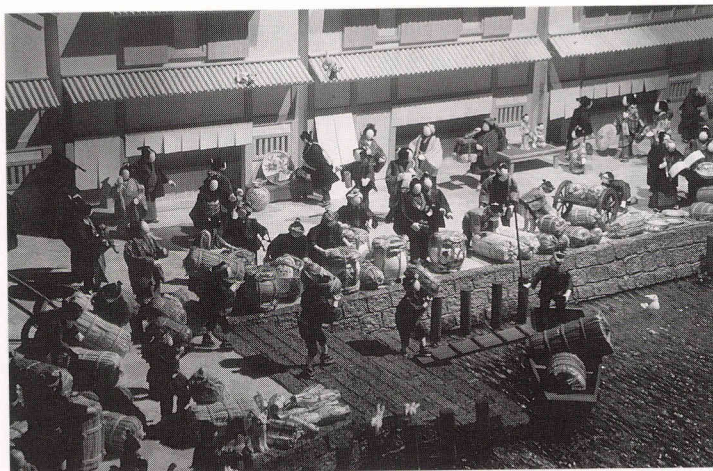
一応は。



人形ジオラマ WHY?

その1

文 中西弘光



「ほんなら二階の出発口
ビーの人形さんの前で待ち
合わせましヨカ」

早いもので大阪伊丹空港
に私達が群衆人形を展示し
初めてから今年で十六年目、

今では大阪発便の乗客の格
好の待ち合わせスポットに
定着してしまっているよう
だ。(九三年開港の開港では
ない、念の為)

昨今は空の旅も暮らしに

なじんでゴク当たり前に
なってきたが、十六年の昔
は、盆暮れの里帰りに飛行
機を利用することは、まだ
かなりな覚悟を必要とする
非日常の事件でもあり、為

にそわそわと心急い
で結果二時間以上も
早く空港に着いてし
まう人も多く「待ち
時間入れたら飛行機
かて結構な時間のか
かりようヤナア」と

大阪弁のボヤキがよく
聞かれたものだっ
た。そんな持て余
し時間を楽しんでい
ただこうと、KKク
ボタからウインドウ
に作品の依頼をうけ
て始まったのが題し
て「浪花百景」。故

郷の歴史的な情景の
あれこれを楽しむ見
世物にしようじゃな
いか、その第一作が
『道頓堀の開削』(水
の都の道頓堀はいつ
頃どういうふうにつ

造られたのか)。以来二年毎に
内容テーマをチェンジしな
がら現在まで八作数える。
これが五百体から千体の群
衆和紙人形の展示「人形ジ
オラマ」である。さて

「人形ジオラマ」、初めて耳
にされる方からは「様に、
「それって何?」というけげ
んな表情が返ってくる。他
に適当な言葉がみあたらない
から使っているのだけれ
ど、それでは「ジオラマ」と
は一体何なの?実は本人に
もよく説明できない。これ
は自分の仕事の再確認にも
いい機会だからと、本棚の
隅から辞書を引っ張り出し
てみることにした。

「Diorama (ダイアラマ)」

驚いたのは発音が全く違う
ことでした。英語でしゃ
べっているつもりなのに外
人さんにも通じない不思議
は、なるほど日本製のロー
マ字読みが理由だったのか、
フムフムなるほど、では意
味はどうなのか?「II透
視画・騙し絵模型の前に窓
枠を創って実際の風景らし
く見せる幻視画。(三省堂)」
ちよつと待てよ、私達の

「和紙人形ジオラマ」はこれ
とはちよつと違うんじゃないの?
そんなきつかけがこの
「和紙人形ジオラマWHY
Y?」経験的覚書今回はそ
の第一回である。

空港整備課の清掃の方々
からまず最初に苦情がきた。
「このウインドーのガラスは

いつも汚れててかなわん
なア、子供の手やおでこ
の油がベタベタについて
おちにくうてしやあない
わ」シメシメこれは作者の
思う壺である。そういえば
展示作業中によく聞こえた
不気味に大きく響くゴーン
という音は、人形を見よう
と境目のガラスに気付かず
に思わずおでこをイヤとい
うほどぶつけてしまう痛い
音だったし、「なんや、はよ
から来てたのに気がつか
なんだなあ」と隣同士でお互
い気付かず人形を楽しんで
くれる人達も多かった。

確か二番目の作品一九八
五年の「四天王寺建立」のこ
と、九州の国立大学の教授
と名乗る方から電話を戴い
た「制作者に一言申し上げ
たい。空港の出発ロビーに
こんな作品をつくっても
らつては困る、迷惑してい
ます!」厳しい口調にう
ろたえて「は、はい、それは
ど、どうしてでしょうか?」
一瞬の気まずい沈黙のあと
に「飛行機に乗り遅れるや
ないですか!」受話器から
は続いて「わっはっはア」
という耳の破れそうな何々
大笑が弾けてきた。

展示は「道頓堀の開削」

五五〇体にはじまり、現在
の「慈見劇場賑(ここにみ
るしばいのにぎわい)」九五
〇体までの八作品。展示は
大阪から西へ、四国、九州
の乗客の待ち合わせ場所と
して「はいいつて人形見て
るわ」とお馴染みにはなっ
たが、その為か中西京子の
作品展は、開催中の九州・
有田の「炎の博覧会」など
関西から西の各地に多く、
何故か関東では大規模展
は機会がなかった。が、
やつと今年十月に横浜でこ
覧戴けることになった。そ
れも功罪のひとつかと思
う。この機会に関東の大学
の先生のジオラマ評もぜひ
お聞きしたいと思っている。
制作コンセプトその①
人形ジオラマ展示は、なに
よりもエンタテイメントを
その心とすべし。

(次号に続く)

◆「中西京子と和紙人形の世
界」展は・十月十七〜二十
二日・横浜高島屋 八F
ギャラリーで開催。

1996 年 NIADA カンファランス リポート

7月31日～8月4日 ダラス・フェアモントホテル 文 小川千恵子



今年のUFDCやオダカ、ニアダなどの主要なドール・コンベンションの開催地はダラス。規模としては全てのジャンルの人形を扱い全米各地のドールクラブの総大会であるUFDCが一番大きく、参加者は千六百人あまりだったという。近隣のホテルで開催されたNIADA

(ニアダ・全米人形作家協会)は、百六十人あまり。もともと少数精鋭で大所帯ではないが、それでも今年の参加者は例年に比較して少ない。

しかし、内容はとても充実していたと思う。五日間に渡って開かれたカンファランスでの講習やディスカッションでは、「ドールアートとはなにか」「ドールアートに携わる者の将来への展望」など、作家、ジャーナリスト、美術館関係者、コレクターやディーラーが積極的に発表や意見の交換を行った。私もドールアートの定義の試みとして日本の作家のアプローチを紹介しながら1時間のプログラムを行った。

ニアダには、世界のドールアートファンが今後の発展を期待し支持しているが、今回、パネルディスカッションの座長をつとめたイギリス在住の作家E.J. テイラーが、ニアダは国際的になるべきでそのために改称も考えては、と興味深い発言をした。実際、彼や多くのニアダの作家が日本人作家の参加と交流を望んでいる。今回日本から参加した作家、中西京子、戸田和子、福田朝子、水澄美恵子の四作家も、あたたかく迎られ展示発表を心から喜んでもらった。DFJも認知度があがり、ディスカッションの時には、「人

形誌で本当にアートを扱っているのはDFJだけだ」という類の発言もいただいた。私達一行は、新しい創造性を、常に大きな喜びを持って迎え、自分の持てるものをシェアする（分け合う）ことを尊ぶNIADAの気質にふれ、大きな喜びをもって帰国することが出来たと思う。その喜びや興奮を、この日本で少しずつでも「分け合う」ために輪を広



めていきたいと考えている。(敬称略)

(ニアダの報告会を行う予定です。日程は別添のお知らせをご覧ください)

写真左上 日本の作家全員が嘆息したE.J. テイラーの作品

写真中 人気作家ダイアナ・エフナーの新作

写真右上 血管や爪など細部の描写まで美しいエリザベス・ブランドンのビスドール



サンタ・バーバラ美術館に中西京子作品

《遊びの芸術：人形と玩具、過去と現在》

5/18～11/3 サンタバーバラ美術館

サンタバーバラ美術館は、世界中の美術品を常設展示しているが、ショット夫人他寄贈によるアンティークドール1000体あまりを収蔵していることでも知られている。今回の企画展ではこれらの貴重な人形の一部を、約10年ぶりに展示。「宗教」「愛と結婚」「死」「素朴と豪華」など、生活に密着したテーマでアンティークドールと現代作家の人形が混合して展示されるという、ユニークな展覧会となった。この中で、中西京子さんの「羽衣」も、東洋の現代人形を代表する作品として展示された。

展示作品の前の中西京子さん



フランクフルト ドールアート リポート 文 ピーター・コウ

第7回国際ドール・アート・ショーが5月下旬にドイツのフランクフルトで開催された。今回は、主催者がパンケ社からスイスのグローレックス社に移行して初めての開催。オランダの作家達はいつものように幻惑的な作品を展示。写真のティヌ・カメルビークの妖精は其中でも傑出していた。その他フランスからは、ヘレヌ・フィラチがデビュー、人気のアンスランやマッソンらが出展。ドイツのルーカスはその豊かなインスピレーションを感じさせる。このドールアートが世界をリードする多くの作家を紹介し、その芸術な高尚さを見るにつけ、現在のヨーロッパにおける赤ん坊や子供の人形の優位性に疑問を感じるのだった。



ベラ・シュルツ — その幸せな人形たち —

文 インゲボルグ・リーセ

ベラ・シュルツが人形作りを始めたのは22年前。アンティークドールが高価だったので、自分で作ってみようとしたのだ。

頭部の型を空気で乾燥させ、手と足にはフィモを使った。頬に丸みをおびさせ、アンティークドールに見えるよう口を小さく、目を大きくした。古いかつらとフリーマーケットで見つけたガラスの眼球を使った。それはとてもかわいいと言える代物ではなかったと彼女は振り返るが、その時は満足感にひたり数個売ったと彼女は言う。自分の為の人形は暇を見つけて作った。その後数年は絵を習い、絵画教室を開いたりしたが、すぐにモデリングを再開し教えた。そしてついに絵画教室をあきらめ人形一筋の道を選ぶことになる。

当初、頭部の型にはあらゆる素材を使い、人形のタイプもマリオネットから空想上のものまでに広がった。それでも物足りなさを感じていた時、ポーセレンに挑戦したのだ。勉強



の為に自分のエネルギーを全て注ぎ込んだと言う。ポーセレンは全てが未知の世界で、初心者がおかすミスはだいたいおかした。作品のほとんどがゴミ箱行きになって、何度も泣いたそうだ。当時彼女はキルン(窯)を持っていなかったなのでその都度遠いケスティング婦人の所へ電車とバスを乗り継ぎ焼きに行っていた。型を販売していたケスティング社はある日、彼女に人形の制作を依頼。家からの援助も無く自活していた彼女にはこのうえない申出であり、この

お金で人形制作に必要な物全てを買い揃えた。

それからは成功が続いた。コンペティションに参加、アメリカの会社と連絡を取った。小さい作業部屋も作り、もうキッチンで作業しなくてもよくなった。1993年からベラ・シュルツはヴァルターハウザー人形社と提携、型を同社に売ようになる。

現在彼女自身はポーセレンの人形しか制作しない。90cm、76cmと大きな人形を作るのが好きだが、ときには小さい物もつくる。量産はしない。ストレスが溜まると言って注文は受けない。そんな姿勢が作品を完璧にし、美しく幸福感を放つ人形となっている(疲れて神経質になっている時、私はヴェラ・シュルツの人形を眺めることに

している。これこそ私の神経療法!) ベラ・シュルツは現在夫、息子と共にドイツの北部に住んでいる。彼女の名は海外にも知れ渡るようになったが、あくまでも趣味を楽しむような制作にこだわっている。彼女の人形を手に入れる為に店もコレクターも辛抱強く待たなければならない。でも彼女の人形にはそれだけの価値がある!

*筆者はパリで人形店「ブベ・タンドレス」を経営する傍ら、フランス現代人形作家クラブ、フランス・ミニチュア・クラブを主宰している。



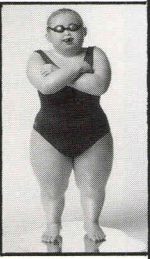
CLASSES

凡例

代: 代表者
講: 講師

教: 教室 日: 講習日
入: 入会金 月: 月謝

内: 内容
関: 関節 固: 固定ポーズ
伝: 伝統技法 衣: 衣装
{洋: 洋装 和: 和装}
素: 素材
桐: 桐塑・桐粉
粘: 石塑・紙粘土

エコール・ド・シモン 四谷シモン人形教室 151 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-5-4 03-3402-9488	サラ・デ・モーラ 184 東京都小金井市緑町 2-12-15 0423-85-3734	アトリエ・リデル 156 東京都杉並区高円寺南 4-2-3 若松荘 101 03-3314-9794	岩切人形教室 158 東京都世田谷区上用賀 5-27-20 03-3425-2396
代: 四谷シモン 講: 四谷シモン 小沢茂・高塚宏 内: 関 素: 桐・粘 日: 月火水木土 入: 50000 月: 14000 より 	代: 佐々木美美子 講: 佐々木美美子 内: 固 素: 布・石 日: 月火金 (各月2回) 入: 6000 月: 6000 	代: 山上真智子 講: 山上真智子 Bee 内: 関 素: 粘 教: 他1 (八王子) 日: 水・他 入: 10000 月: 8000 	代: 田村涼子 講: 田村涼子 横田早苗 内: 固・関・衣 (洋) 家具 素: 粘・FRP 日: 相談 入: 15000 月: 6500 より 
パール・ドールズ 113 東京都文京区本郷 4-36-11 03-3394-1104	藤井路以 173 東京都板橋区中丸町 39-2-104 03-3530-6598	竹取物語人形学校 171 東京都豊島区目白 3-1-36 03-3954-3395	ドール・スペース・ピグマリオン 158 東京都世田谷区奥沢 6-28-14-201 03-3704-3730
代: 高橋登美子 講: 高橋登美子 内: 固・関・衣 (洋)・抱 き人形 素: 布・桐・石・綿 日: 火水 入: 15000 月: 12000 	代: 藤井路以 講: 藤井路以 内: 固・関・伝・衣 (洋)・マ リオネット・からくり 素: 粘 日: 火金日 (各月1回) 入: 20000 月: 12000 他雑有 	代: 渡邊素子 講: 渡邊素子 内: 固・関・ 素: 布・桐・石 日: 月火土日 (隔週) 入: 15000 月: 11000 	代: 吉田良一 講: 吉田良一 福島弘太郎 内: 固・関・衣・オブ ジエ・カラクリ等 素: 布・木・桐・粘・FRP 日: 月木金土日 入: 20000 月: 13000 
よみうり渋谷アカデミー オブジェドール教室 150 東京都渋谷区桜丘 13-15 03-5458-8844	ART モマーユ 206 多摩市貝取 2-5-3-506 0423-76-1494	水澄美恵子人形教室 206 東京都多摩市貝取 2-2-16-203 0423-38-8639	安藤早苗人形教室 194 東京都町田市森野 1-37-1 0427-22-4030
代: 高橋操 講: 高橋操 内: 固・衣・(洋)・他 素: 粘 日: 第1・3水 入: 5000 月: 12000 (3月分) 	代: 所由紀子 講: 所由紀子 内: 固・衣 (洋) 素: 布・粘 日: 第1・2・3金 入: 10000 月: 9000 	代: 水澄美恵子 内: 固・関・伝・衣 (和) からくり 素: 布・桐・粘・FRP オープン粘土・張子 教: パルテノン多 摩/名古屋 日: 木 (月2回) 入: 10000 月: 10000 他雑有 	代: 中西京子 講: 各都市講師 内: 固・衣・(和) 素: 和紙 教: 全国各都市 日・月: 各教室による 詳しくは上記東京中 央教室に問い合わせを 
ノーマ=ドール=スタジオ 242 神奈川県大和市西鏡間 8-4-29 0462-77-1332	沖幽子創作人形教室 367-02 埼玉県児玉郡児玉町高柳 275-1 0495-72-5791	滝康子創作人形教室 333 埼玉県川口市芝 4178-29 048-268-7380	福田朝子人形教室 360 埼玉県熊谷市箱田 2-14-12 0485-25-0959
代: 荒木野馬 講: 荒木野馬 内: 固・関・衣 (洋) 素: 桐・粘 日: 火日 (各月2回) 入: 20000 月: 13000 	代: 沖幽子 講: 沖幽子 内: 固・伝・衣 (和・ 洋)・ぬいぐるみ 素: 布・桐・石・オーブ ン粘土・紙 日: 第1・3水 (月2回) 入: 10000 月: 10000 他雑有 	代: 滝康子 講: 滝康子 内: 固・関・衣 (和・ 洋)・抱き人形 素: 布・粘・張子・胡 粉・革 日: 水 入: 20000 月: 12000 他雑有 	代: 安藤早苗 講: 安藤早苗 内: 固・関 素: 粘 教: よみうり文化セン ター・町田/川越 日: 第2・4火他 月: 15000 
太山レミ人形教室 730 広島県広島市中区十日市町 2-7-24 コーポサンシャイン101 082-281-5069	堀佳子 生き人形教室 719-01 岡山県浅口市群金町佐方 148-4 0865-42-3634	大橋敏子人形教室 720 広島県福山市地吹町 13-39-603 0849-31-5827	教室案内は偶数号に掲載 されます。掲載無料。 掲載をご希望の方は所定 の掲載をご希望の方は所 定の書式がありますので お申込下さい。
代: 太山レミ 講: 太山レミ 内: 固・関・衣 (和・ 洋)・布張り 素: 布・桐・粘 日: 第1・2・4火土 月: 5000 	代: 堀佳子 講: 堀佳子 内: 固・関・衣 (洋) 素: 布・桐・粘・オーブ ン粘土 日: 第2・4火 入: 10000 月: 8000 	代: 大橋敏子 講: 大橋敏子 内: 関・衣 (洋) 素: 粘・桐・ビスク・布 張り 日: 第1・4月 月: 5000 	



私の人形物語 その② こたつ職人 文・イラスト 渋まり

■投稿募集

LETTERS/REVIEW 採用分にはリーセはがきセットを進呈
INFORMATION ニュースがあったらお知らせください
近況報告 プロの作家の新作発表の場です。審査有
教室案内 DFJ偶数号に掲載 写真返却不可
展覧会案内 随時受付 写真は後からでも結構です

■ 11号原稿締切 10月15日必着 (返却が必要な原稿は返却希望とお書き下さい)

■ 同封DM締切 12月1日 (枚数はお問い合わせください)

■ 11号発行予定 12月6日

ドール・フォーラム・ジャパンは年に4回3月・6月・9月12月に発行されます。初年度会費は5000円、継続会費は4500円です。

■DFJ購読方法

ドール・フォーラム・ジャパンは書店では販売されていません。購読会員制ですので、下記のいずれかの方法で会費をご送金下さい。
郵便振替 00170 3 252796

「ドール・フォーラム・ジャパン」通信欄に「入会希望」とお書き下さい

現金書留 または 郵便小為替

■バックナンバー

会員1部1000円 非会員1400円 (送料込)
5号 (後藤朝子)、6号 (四谷シモン)、7号 (たがわまさき)
8号 (大井要)、9号 (藤井路以)

ドール・フォーラム・ジャパン第10号 1996年9月5日発行
編集発行 ドール・フォーラム・ジャパン事務局
〒189 東京都東村山市久米川町3-27-57 ☎ 0423-95-7547 FAX 0423-95-7975
編集責任者 小川千恵子
制作スタッフ 小磯洋 宗澄仲江
印刷 株式会社 日出島
本誌掲載の記事・写真の無断掲載を禁じます

♥ アンケートの回答やお手紙をたくさん頂き有り難うございました。その中で、確かにこの心個人的には人形はそれほど好きではありません。だから、この本を見ると、思い入れのある人形がこれでもかとのついでに頭がいたくなるようなときがあります。じゃあなぜこの本をとるのかといえ、ズバリ、人形が好きで友人がいて、その影響です。でも、ひょっとしたら、私のような位置の読者はめずらしいのかもしれない。だから、大衆的な目から見てフォーラムにのっているような人形たちはナルシストだと思われ、海外の人形は文化の違いか、性に合いません。見る者にかたまりかけのある人形をぜひ探して紹介して下さい。(でも、小川さんのように人形にうずもれた生活をなさっている人は、難しいことなんでしょうね。あの人形のこころがよいし、この人形はこころがすてがよい味がある・うらむ。) アンケートより

回答のような立場の方の数はこの方のご察しのとおりです。でも、私がとても嬉しかったのは、私がこの方と似た立場だったからです。私は作家でもコレクターでもなく、熱烈な人形ファンというわけでもない、でも、人の形で表現するという行為に興味があります。特に、人形に、自分と似たような位置の人にDFJが届いた、と思うと感慨深いものがあります。た。DFJは、もちろん、人形に関係する方のための情報誌でもあります、それと同時に、人形をあらゆる表現活動のひとつとして興味を持って下さるすべての方に捧げたいと思います。そして、誰でもが何か、ワクワクするような光をDFJから見付けられるような本作りを目指しています。
訂正9号の記載に以下の誤りがありました。謹んでお詫びし、訂正いたします。
スケジュール欄 昔人形コレクションニピアニスト山下有子 (誤 山本)
人形気分 岩本さんの話 2段目午後の閉店は(開店)に

編集後記

◇前号を発送したときに、読者向けのアンケートを同封させていただきしました。これに対し、多くの貴重な意見や感想、お手紙が送られてきました。読者の方がDFJを熱心に読んで下さっている様子を実感でき、心より感謝申し上げます。ご紹介したいご意見も多くありましたが、誌面の都合で割愛させていただきましたが、アンケートは全て貴重な資料として保存させていただきます。アンケートは今後も続けさせていただきたいと思いますので、DFJを育てるお気持ちでご協力を宜しくお願いいたします。

◇ニアダ参加の為渡米する直前に、フランスのフィリップ・ジャンティの舞台を見ました。かぶり付きで見ました。大がかりな装置や仕掛け、美術の美しさ、ウィット、演技の確かさ、発想のユニークさはさすがだと思いましたが、最後、人形と役者全員が苦しうに走る場面は圧巻でした。なんだか分からないうちに、人形が表現する辛さ苦しさに共振して涙がでました。動く人形ってすごい!

◇今年のニアダは、こじんまりしていましたが、ドールアートを熱っぽく語り合い、密度が濃いものでした。この体験を少しでも多くの人と分かち合えればと思って、同行した作家の方々と報告会を開く予定ですのでご興味のある人は是非ご参加ください。

ドール・フォーラム・ジャパン編集事務局長 小川千恵子



ドイツの伝統を誇るバルターハウザー人形社から
魅惑のヴェラ・ショルツの人形をあなたのお手元に…



ビスクドールの上品な質感を、バルターハウザー人形社は独自に開発した「ベギドゥア」で再現しました。オリジナルでは何十万円もする人気作家のデザインを、限定モデルで忠実に再現。かつらには人毛、目には美しいガラスアイ、生地はシルクや高級プリント地を使用しています。手足、首を動かすと、優しく表情が変化します。是非お手にとって、その愛らしい感触をおためし下さい。

ご注文は、お電話か、ユーラシア・ドールズの通信販売注文用紙で。ヴェラ・ショルツの他、可憐なゲンツェル、素朴なキスリングの人形もご紹介しています。詳しくはユーラシア・ドールズまでご連絡下さい。

写真左上 ルイザ 65cm 72,200円

写真右上 ウタ 65cm 69,000円

写真左 左よりジュニアニタ65cm72,200円、ヴィオラ75cm 88,000円、ルイザ

ガラスの目、かつら、ドールスタンド、アクセサリ！
もう、探すのに時間はいりません！

バンケ社、グローレックス社 人形素材カタログセット

今なら無料で！ヨーロッパの人形素材が全てそろ
います！（郵送切手 590 円別途）

カタログ内容 * 9月中旬より発送を開始いたします。

バンケ社（ドイツ） A4 オールカラー 248 頁 写真 1000 枚
20 種類の目（各サイズあり、美しいカラー写真で 18 頁記載、ガラス・ア
クリル・プラスチック）、まつげ、45 種類のかつら（人毛、モヘア）、53
種類のドール・ボディ（クロス、ビスク）53 種類の筆、レプリカ製作用
モールド（アンティーク 265 種、現代作家 83 種）、その他ツール類、衣装、
下着、靴、ジュウリー、メガネや鞆、椅子、楽器などのアクセサリ、ス
タンド、粘土など

グローレックス社（スイス） A4 オールカラー 216 頁 写真 850 枚
オリジナルのスイスのクロス・ドール、カツラ、目、靴、ソックス、デ
ィベア、パペット、ビニールドールキットなど

カタログには価格表と注文用紙（日本語）が入っています。ご注文はユー
ラシア・ドールズが取り次ぎいたします。

* 教室、販売店の方もご利用下さい。

